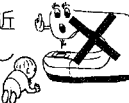
使い方の手びき

《取扱説明書》

Type 360

JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　For use in japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

⚠警告　この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠注意　この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

記号	意味
⚠	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
🛇	🛇記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
●	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

⚠警告　感電・火災の恐れがあります。

必ず実行
一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。

必ずプラグを持って抜く
以下のような時は、電源スイッチを切り電源プラグを引き抜いてください。
・ミシンのそばを離れるとき
・ミシンを使用したあと
・ミシン使用中に停電したとき

⚠注意　感電・火災・けがの原因となります。

分解禁止
お客様自身での分解はしないでください。

接触禁止
ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。

禁　止
縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。

禁　止
曲がった針はご使用にならないでください。

禁　止
付属の電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。
このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。

禁　止
電源コードの上に、物をのせないでください。

必ず実行
針及び押さえは、確実に固定してください。又、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
針が押さえにあたり、けがの原因になります。

必ず実行
ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。

必ず実行
お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。

必ずプラグを持って抜く
以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。
・針・針板・押さえ・アタッチメントを交換するとき
・上糸・下糸をセットするとき
・ランプを交換するとき(ランプが冷えてから行ってください。)
・ミシンのお手入れを行うとき

必ずプラグを持って抜く
ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。
・正常に作動しないとき
・水に濡れたとき
・落下などにより破損したとき
・異常な臭い・音がするとき
・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

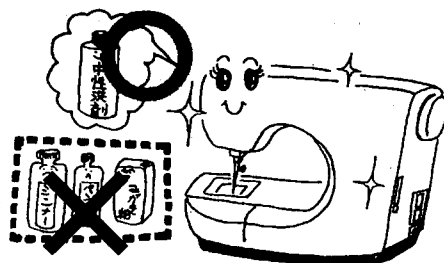
※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

●目次

おとり扱いについてのお願い

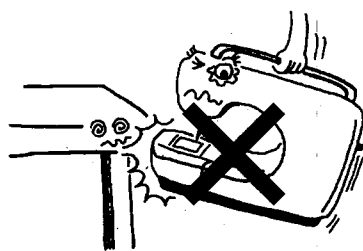
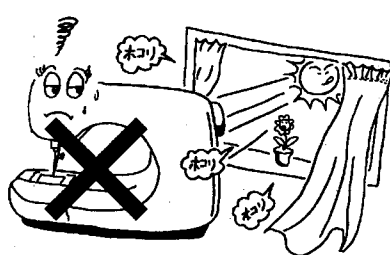
◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよくふいてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

◇いつまでもご愛用いただくために

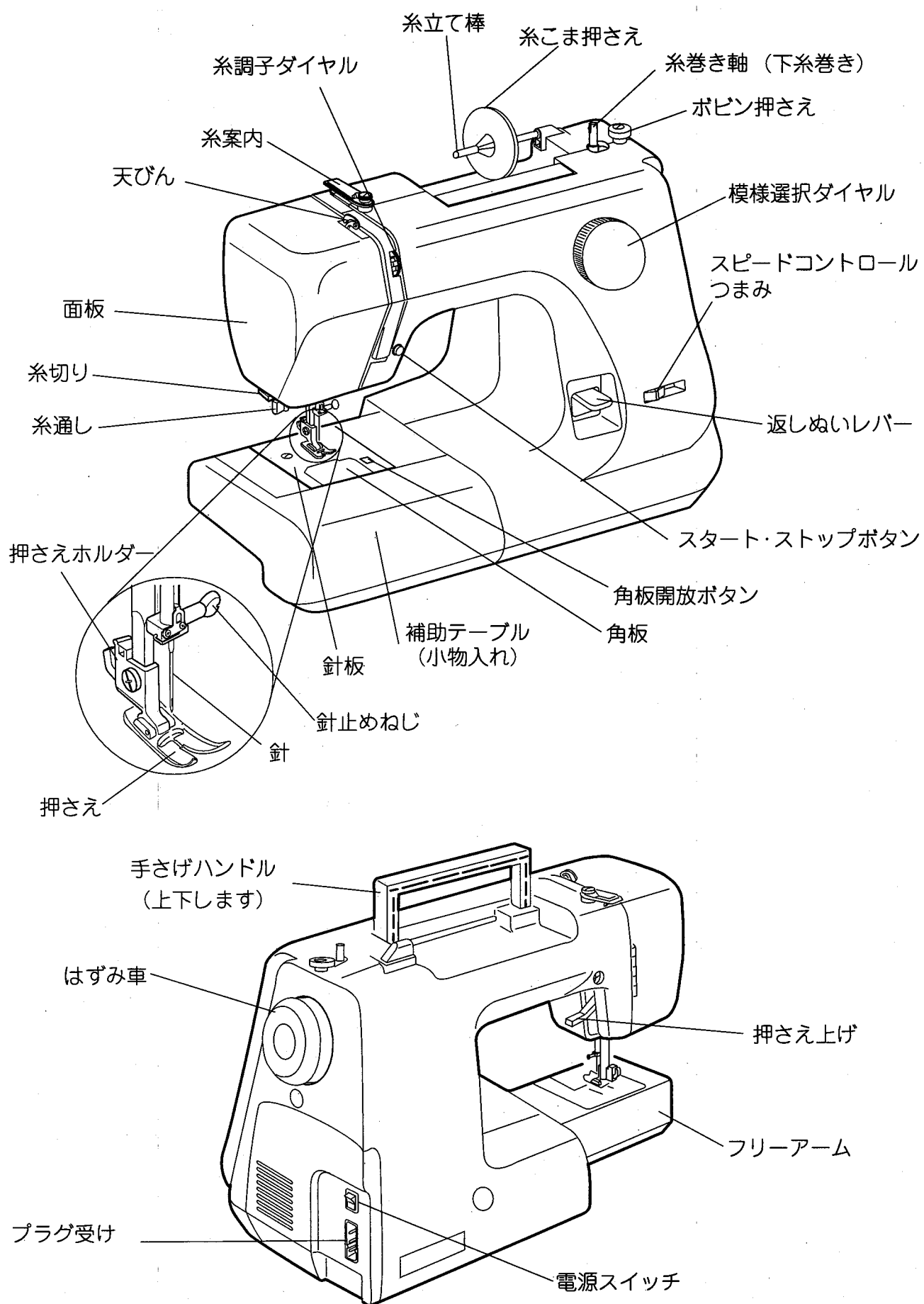
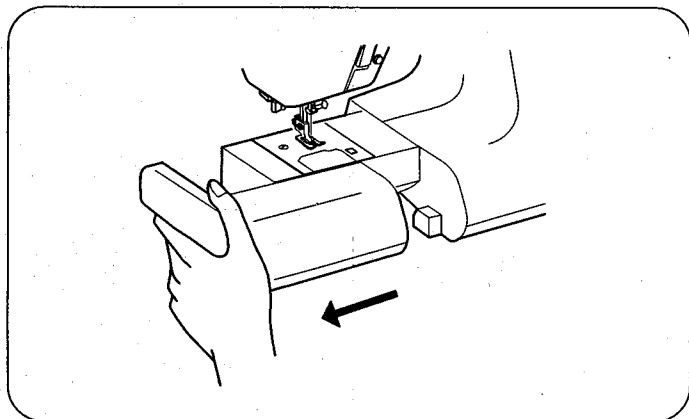
① 長時間日光に当てないでください。

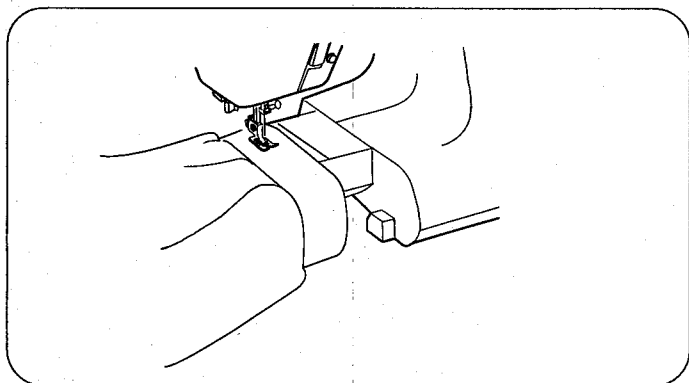
② 湿気やほこりの多いところはさけてください。

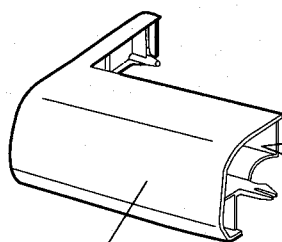
③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(24ページ) により点検・調整を行ってください。

●各部の名称

糸立て棒
糸こま押さえ
糸巻き軸（下糸巻き）
糸調子ダイヤル
ボビン押さえ
糸案内
天びん
模様選択ダイヤル
スピードコントロール
つまみ
面板
糸切り
糸通し
返しぬいレバー
スタート・ストップボタン
押さえホルダー
角板開放ボタン
補助テーブル
（小物入れ）
角板
針板
針止めねじ
針
押さえ
手さげハンドル
（上下します）
はずみ車
押さえ上げ
フリーアーム
プラグ受け
電源スイッチ

●補助テーブルの使い方

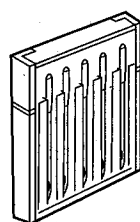
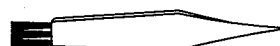
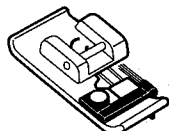
【はずし方】
補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いてはずします。

【フリーアームの使い方】
袖口やすそなどのぬい、およびふくろ物の口端の始末に利用します。

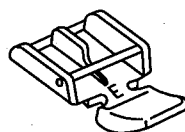
●標準付属品と収納場所

補助テーブル

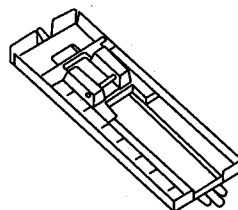
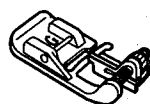
A 基本押さえ
（ミシン本体に付いています。）

針と針ケース

ミシンブラシ

ボビン

C たち目かがり押さえ

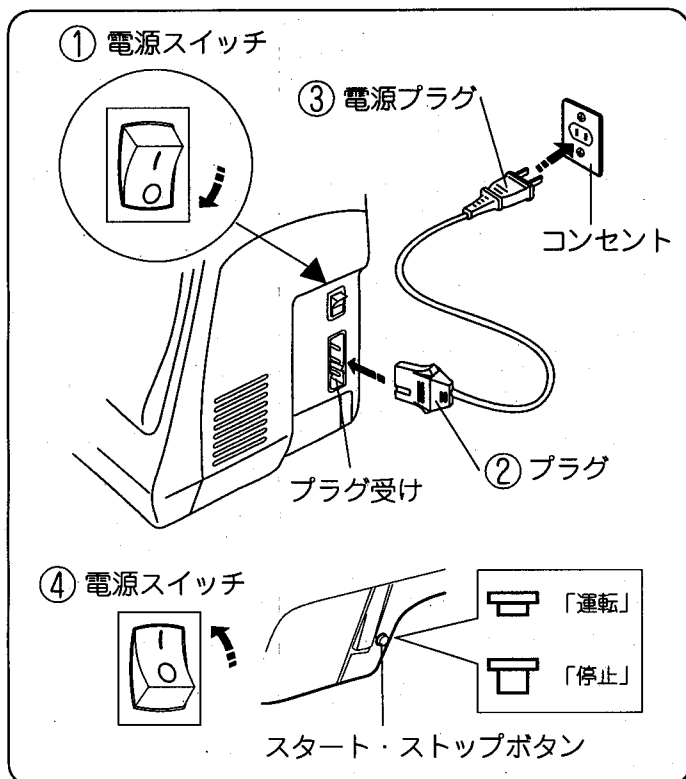
ねじまわし

目ほどき

E ファスナー押さえ

J ボタンホール押さえ

G くけぬい押さえ

糸こま押さえ（大）

糸こま押さえ（小）

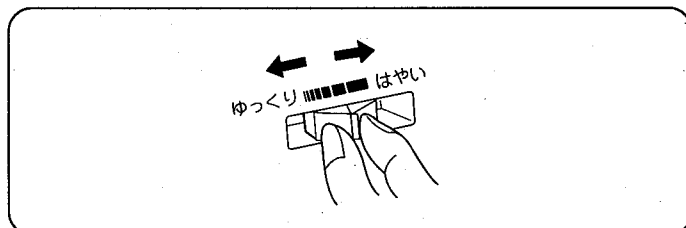
●操作方法

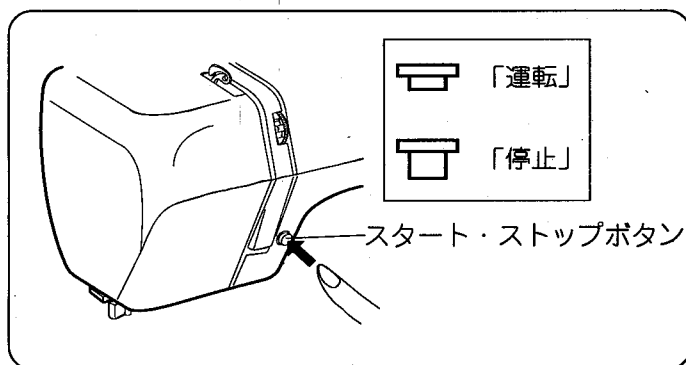
◎電源のつなぎ方

①電源スイッチを「切」にします。
②プラグをプラグ受けに差し込みます。
③電源プラグをコンセントに差し込みます。
④スタート・ストップボタンが「停止」位置にあることを確認してスイッチを入れます。

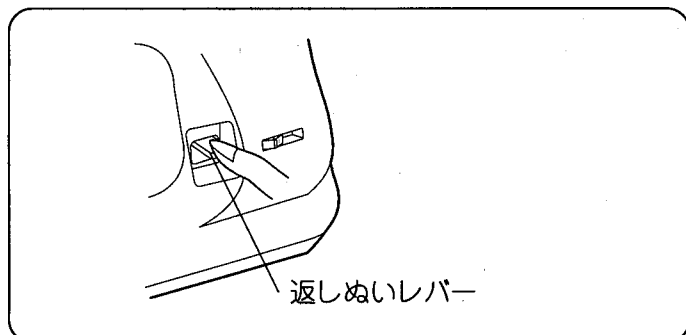
※電源は一般家庭用（100V 50/60Hz）です。
※ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

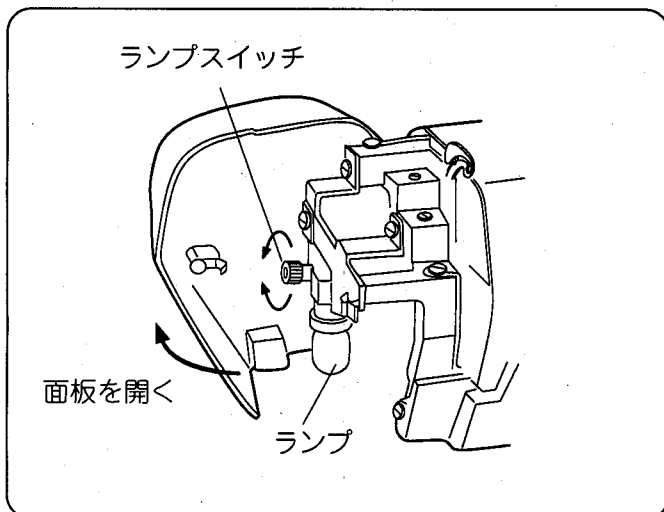
スタート・ストップボタンが「運転」の状態（押した位置）で、電源スイッチが「入」になっている場合は、電源プラグをつなぐと同時にミシンが動きだし危険です。必ずスタート・ストップボタンを「停止」の状態にしてください。

※電源スイッチ
| は「入」
○ は「切」

◎速さの調節の仕方

ぬう速さは自由にセットできますので、スピードコントロールつまみをお好みの速さにセットしてください。

◎スタート・ストップボタン

ボタンを押すと、ミシンはスピードコントロールつまみでセットした速さでぬい始めます。もう一度押すと止まります。

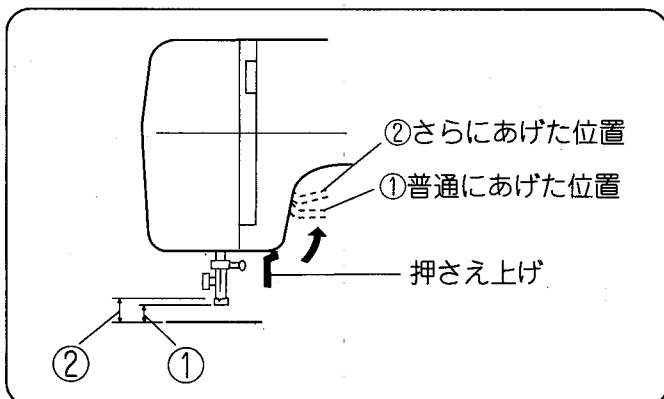
◎返しぬいレバー

ミシンを動かしている途中で返しぬいレバーを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと前進ぬいにもどります。

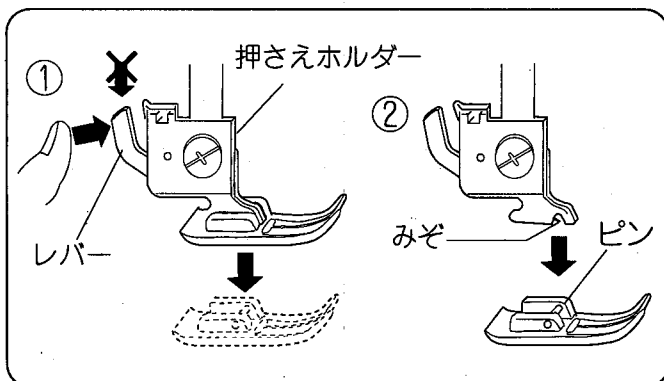
◎照明ランプ

《照明ランプのつけ方・消し方》
照明ランプの点滅は、面板を開けてランプスイッチをまわします。

《照明ランプのとりかえ》
①ランプを左へまわしてはずします。

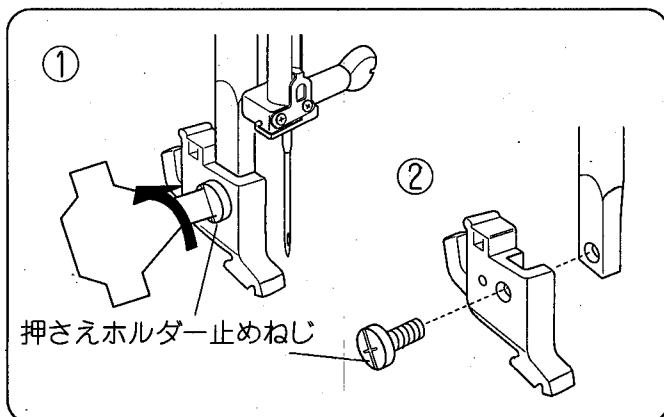
②ランプをさし差し込んで、右へまわしてとりつけます。

・ランプをとりかえるときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
・ランプは冷えてからはずしてください。

◎押さえ上げ

押さえ上げをさげると押さえがさがり、布地を押さえます。厚物の布が入れにくいときには、普通にあげた位置よりさらにあげて入れます。

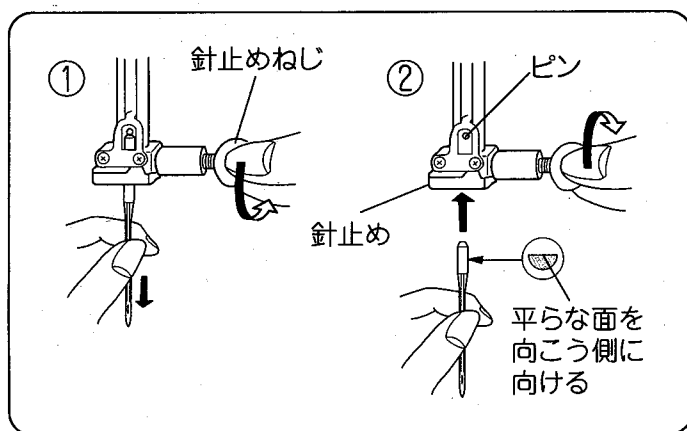
◎押さえのとりかえ方

①押さえ上げをあげ、押さえホルダーのレバーを押して、押さえをはずします。
※レバーの上を押すと故障の原因になります。

②押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、押さえ上げを静かにおろし、ピンをみぞに入れます。

◎押さえホルダーのはずし方、つけ方

①押さえホルダーの止めねじを左にまわしてはずします。

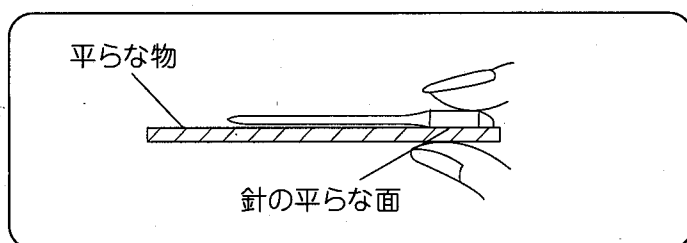
②押さえホルダーの止めねじを右にまわしてつけます。

◎針のとりあつかい

★針のとりかえ方

針のとりかえは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

①針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針をはずします。

②針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

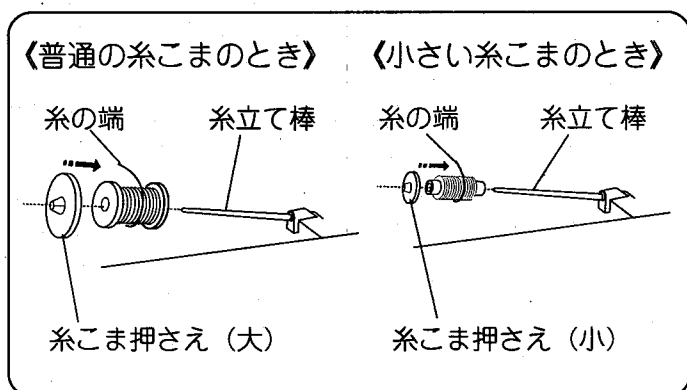
★針のしらべ方

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。
針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

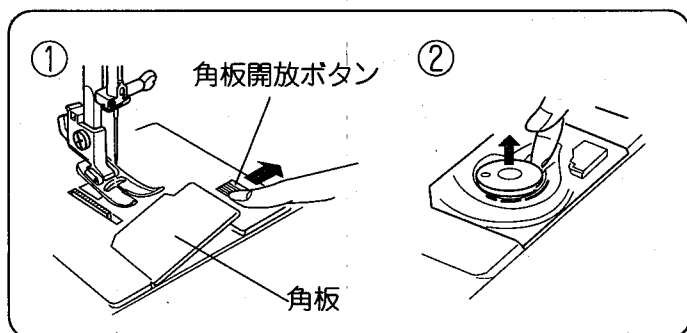
★布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	ポリエステル、ナイロン ９０番	９番～１１番
普通の布	普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール・化繊服地	絹　糸　５０番 綿　糸　６０番 ポリエステル、ナイロン ５０番～９０番	１１番～１４番
		綿　糸　５０番	１４番
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	絹　糸　５０番 綿　糸　４０番～５０番 ポリエステル　４０番～５０番	１４番～１６番
		絹　糸　３０番 綿　糸　３０番	１６番

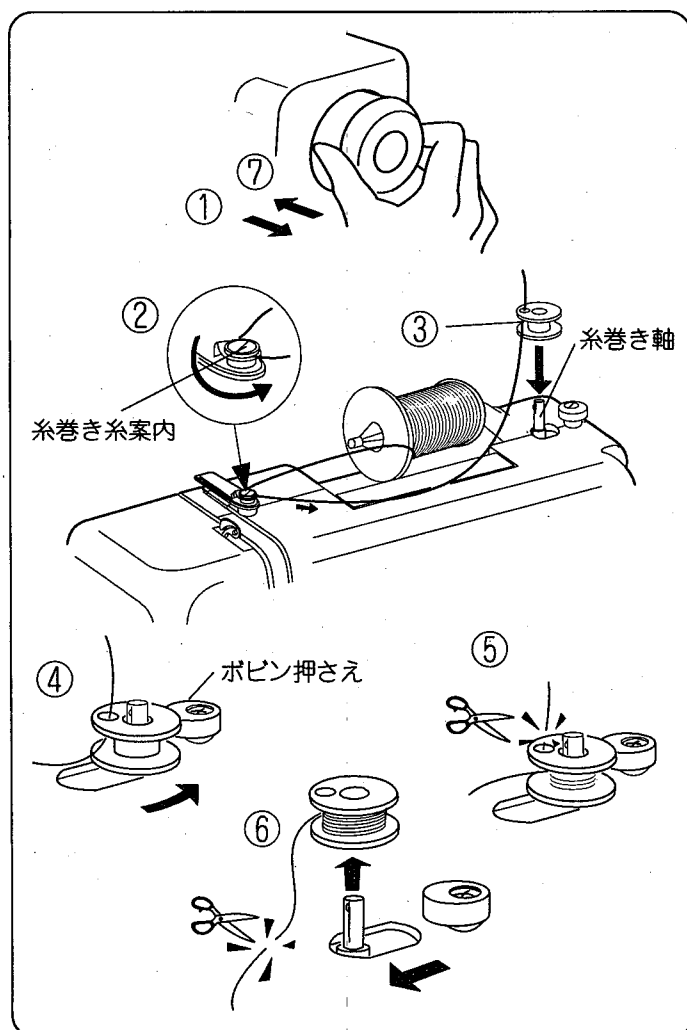
※一般に、うすい布には細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。
　この表を目安に針と糸を選び、ぬいたい布のはぎれを使って試しぬいをしてください。
※原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。
※伸縮性のある布地（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャノメブルー針を使用すると効果があります。
　（市販ＳＰ針も同様の効果があります。）

◎下糸の準備

★糸こまのとりつけ

糸立て棒に糸の端が向こう側に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまをおさえます。

★ボビンのとりだし

①角板開放ボタンを右にずらして角板をはずします。

②ボビンをとり出します。

★ボビンに糸をまく

糸巻き軸を動かすときは、必ずミシンを止めてください。

糸巻きのときは、スピードコントロールつまみを「はやい」の位置にしてください。

①はずみ車を引き出します。

②糸巻き糸案内に、矢印にそって糸をかけます。

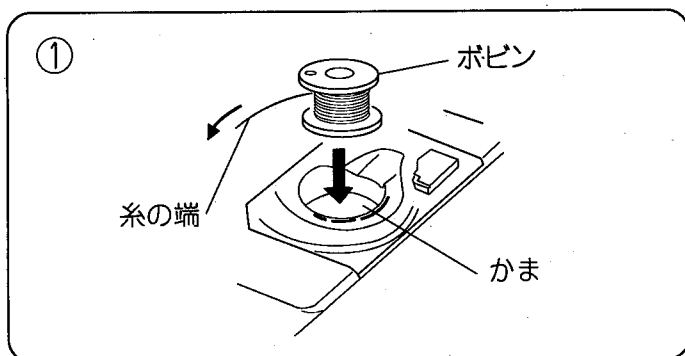
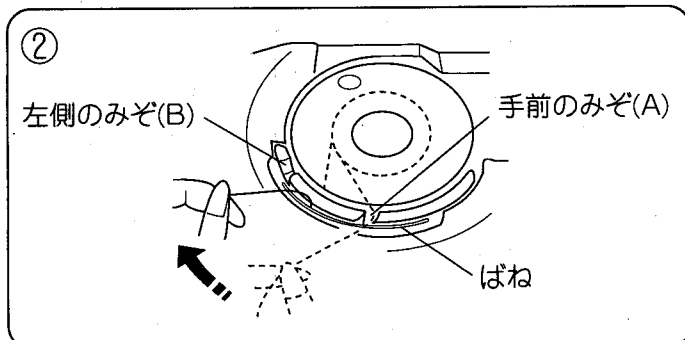
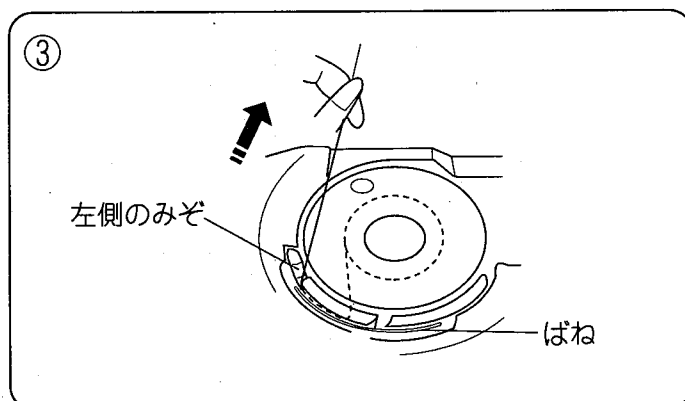
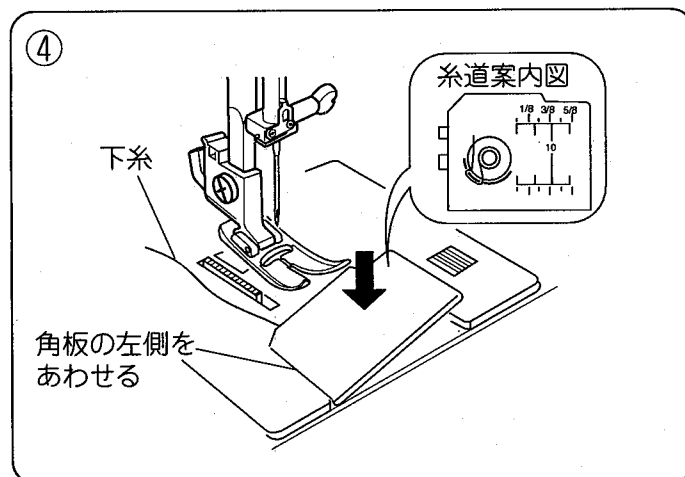
③ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

④ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。

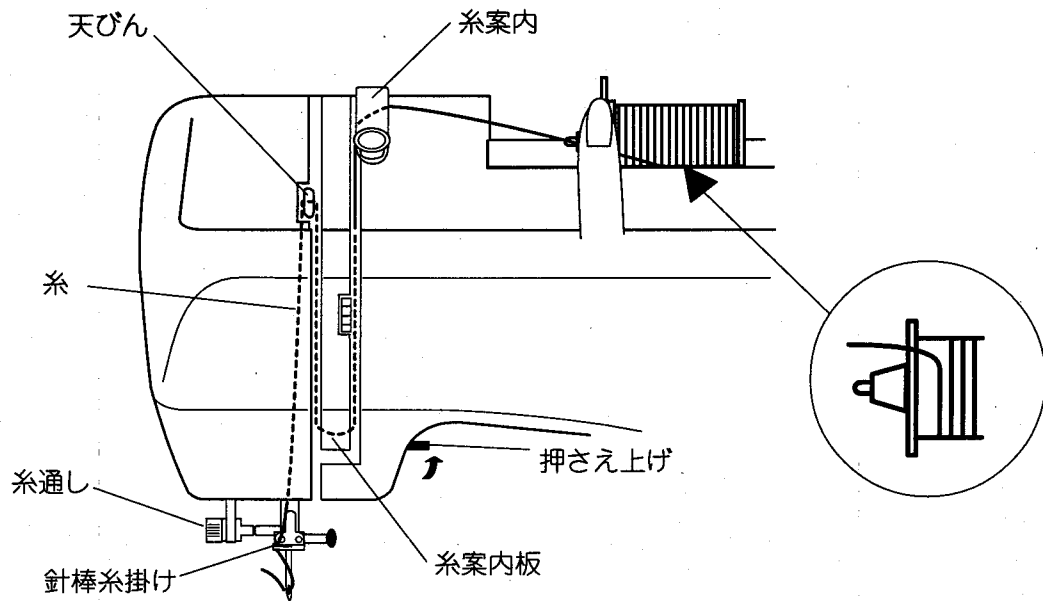
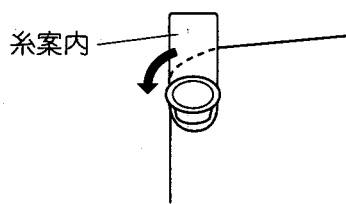
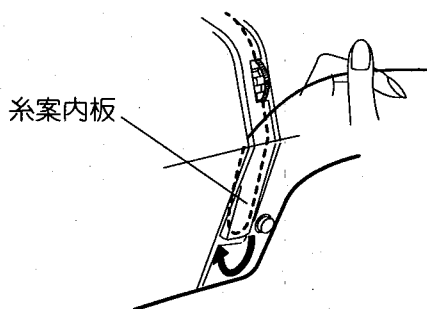
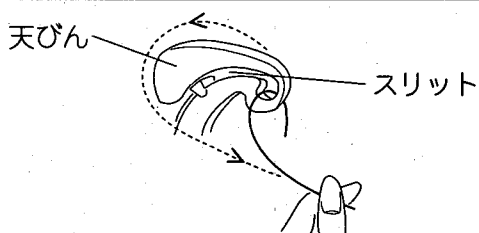
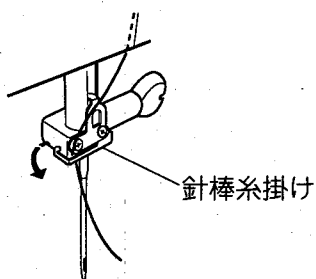
⑤糸の端をつまんだままミシンをスタートして、ボビンに糸が二重ほどまきついたら、ミシンを止めてつまんでいる糸を切ります。

⑥再びスタートして、まき終わったらミシンを止めます。糸を切って糸巻き軸をもどし、ボビンを糸巻き軸からはずします。

⑦はずみ車を押してもどします。

★ボビンのセット

糸の端を矢印方向に出し、ボビンをかまに入れます。

糸の端を引きながら、手前のみぞ(A)にかけます。糸を引きながら左へ移動させ、みぞの外とバネの間を通して、左側のみぞ(B)のところに出します。

糸を左側のみぞにかけるように向こう側に出します。

下糸は10cmくらい引き出して、角板を左側からあわせてつけます。

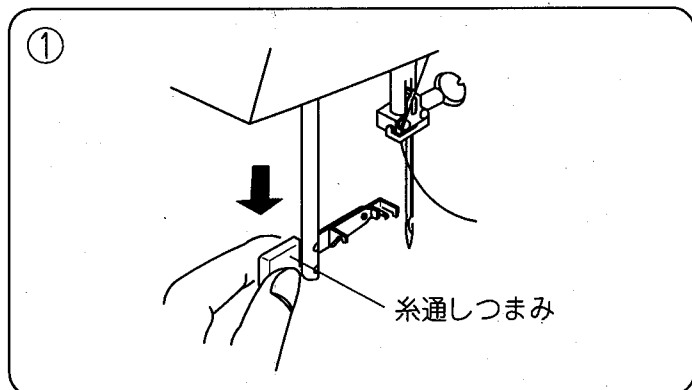
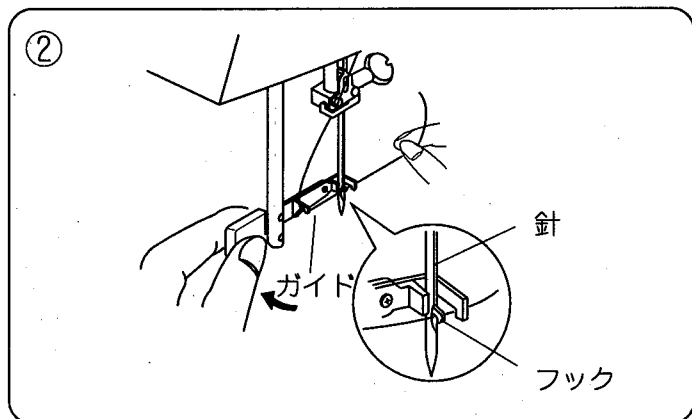
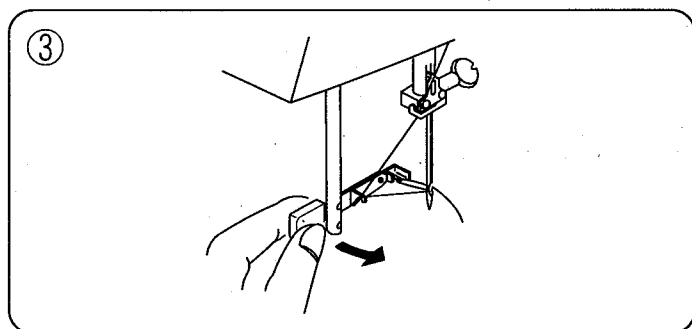
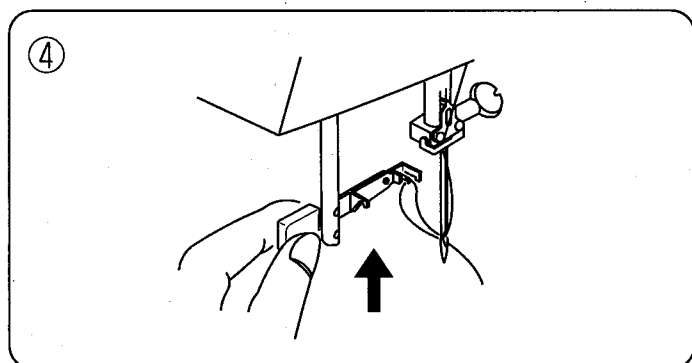
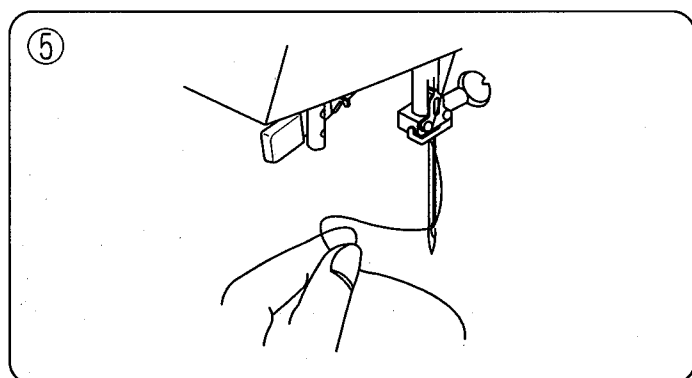
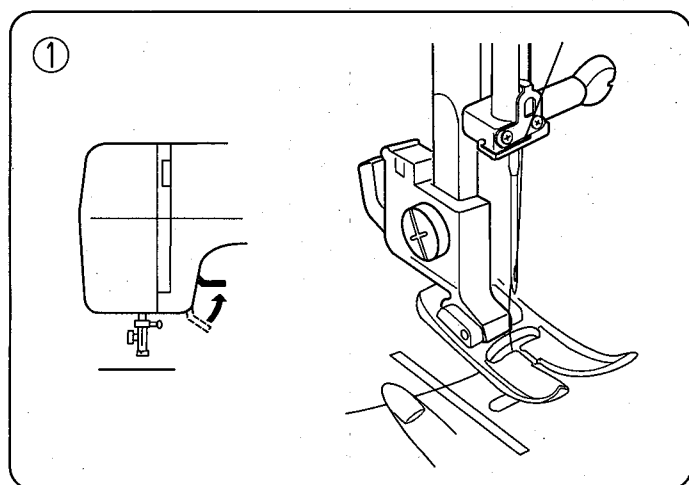
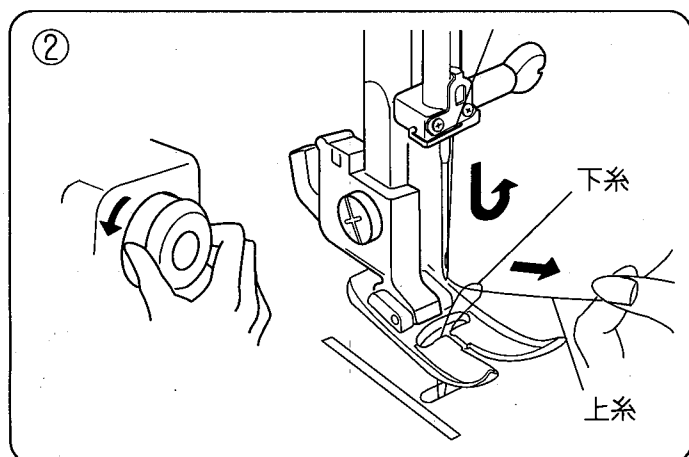
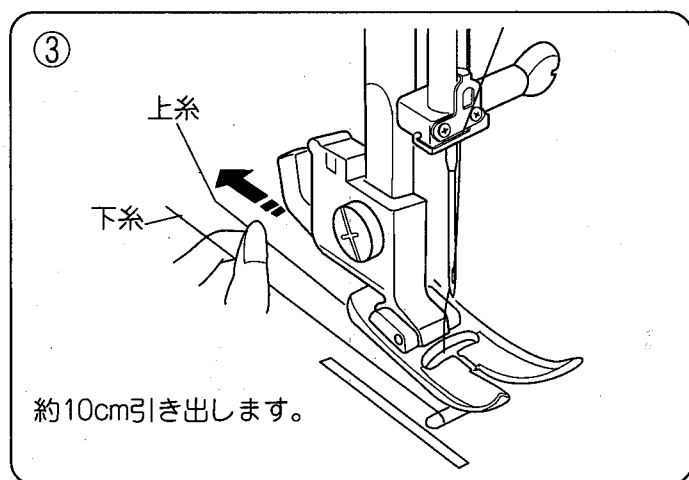
◎上糸のとりつけ

★上糸をかける

押さえ上げをあげ、糸こまから糸を引き出し、糸こまを軽く押えながら糸案内の下にまきつけるようにしてかけ、糸案内板にそっておろします。

糸案内板の下をまわして、左上に引きあげます。

はずみ車を手前にまわし、針をあげて天びんを上部にします。
天びんの右から後へまわして左に出し、手前に引き出してまっすぐ下におろします。

針棒糸掛けに左からかけます。

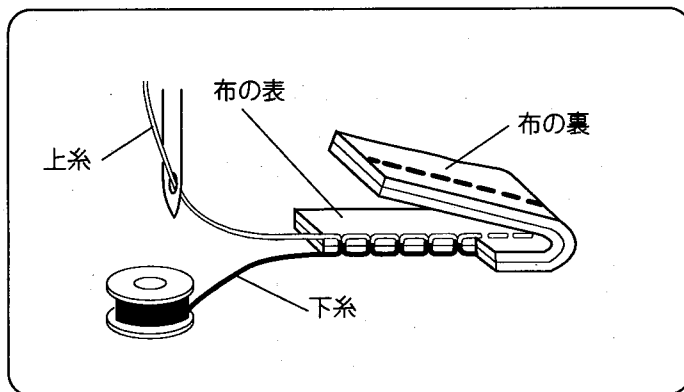
※針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は11ページをごらんください。

★糸通しの使い方

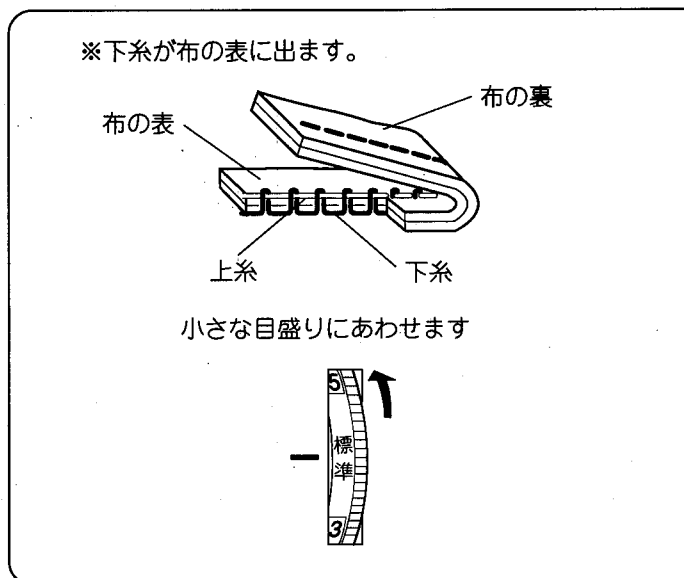
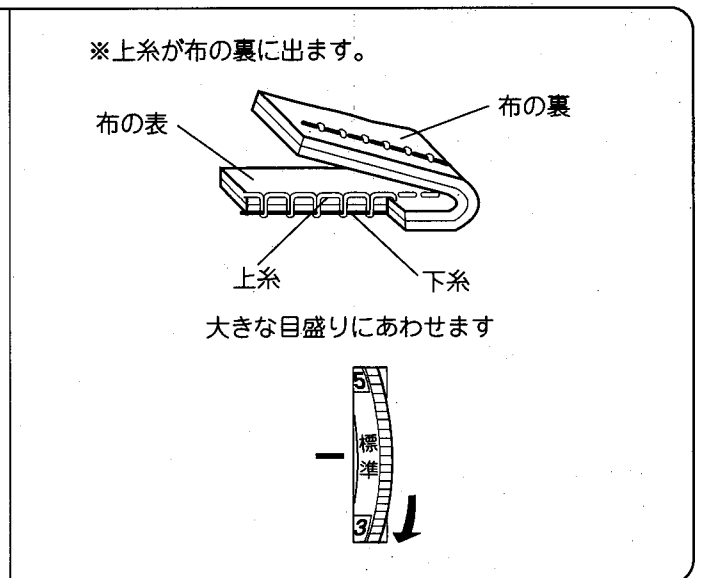
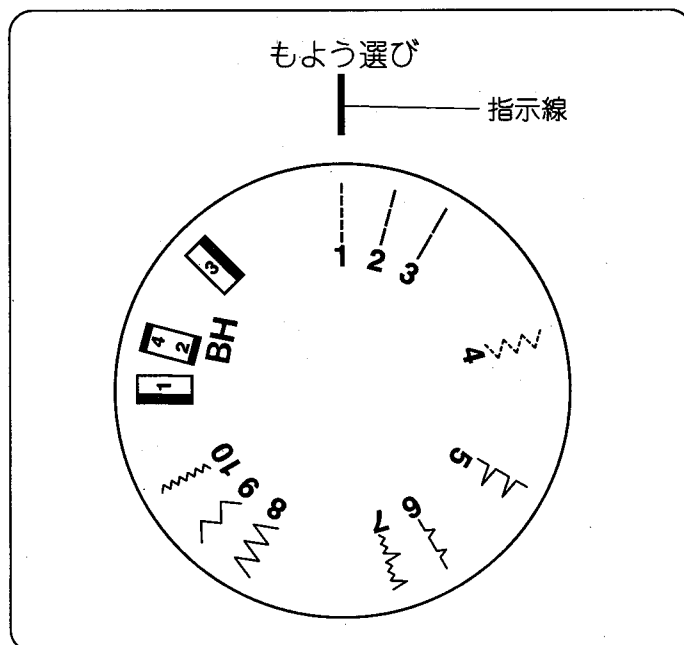
※針は１１番～１６番、糸は一般糸５０番～
　１００番が使用できます。

針を一番上にあげて、糸通しつまみを止まるまでいっぱいに引きさげます。

つまみを矢印方向へまわしてフックを針穴に入れ、糸をガイドとフックにかけます。

つまみを矢印方向にまわすと、糸が輪になって出てきます。

つまみを静かに押しあげ、糸の輪を引きあげます。

糸の輪を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。

★下糸の引き上げ

押さえ上げをあげ、上糸の端を指で押さえます。

はずみ車を手前にまわし、針をいったんさげてからふたたびあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

上糸・下糸を押さえの下にして、後へそろえて出します。

◎糸調子のあわせ方

★バランスのとれた糸調子

素材やぬい方によって、糸調子ダイヤルをまわして調整します。糸調子が正しく調整されていないと、ぬい目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

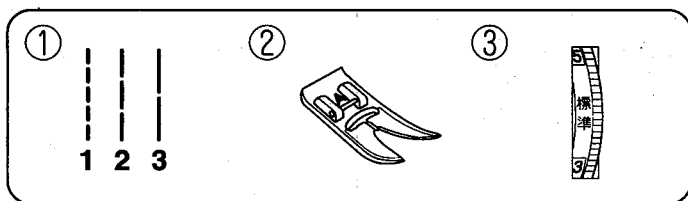
直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。
ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

★上糸が強すぎるとき

★上糸が弱すぎるとき

◎模様選択ダイヤル

針を最上部にあげて、模様選択ダイヤルをまわし、指示線に選んだ模様をあわせます。

模様選択ダイヤルをまわすときは、針を布からあげてください。

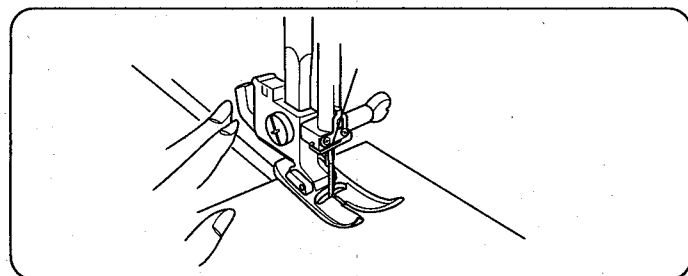
●いろいろな実用ぬい

◎直線ぬい

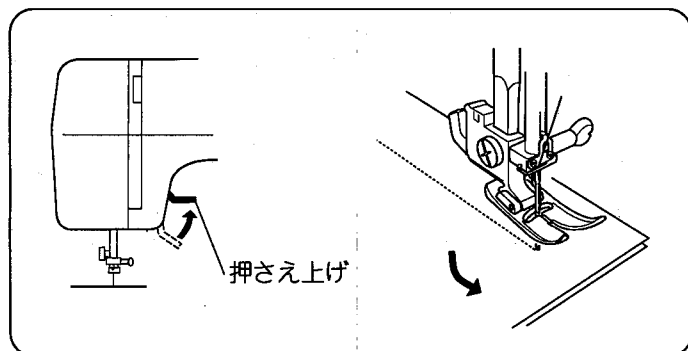
★ミシンのセット

①模様　　1, 2, 3

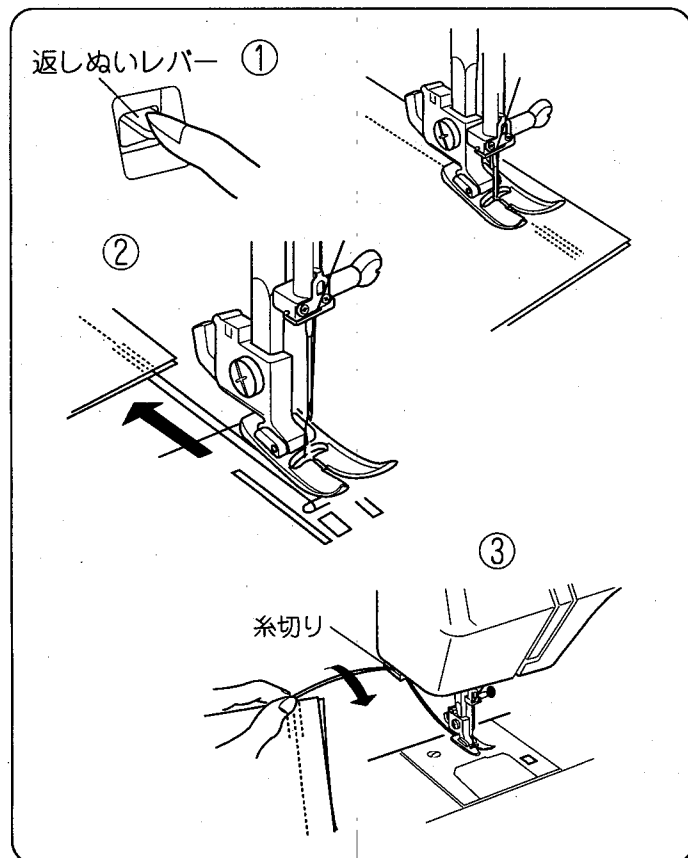
②押さえ　　A 基本押さえ

③糸調子ダイヤル　　2〜6

★ぬい始め

糸と布を左手でおさえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。
押さえ上げをさげて、ゆっくりぬい始めます。

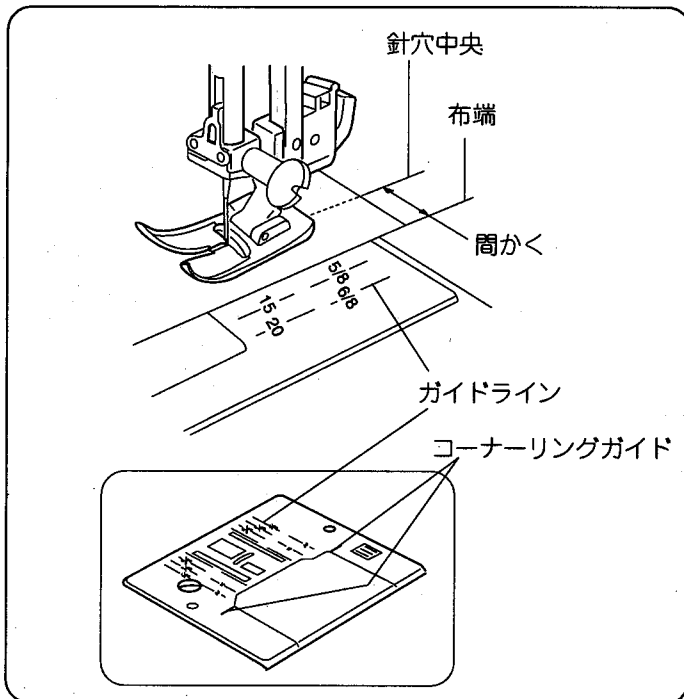
※ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

★ぬい方向の変更

ミシンを止め、針を布にさしたままで押さえ上げをあげて、布をまわしてぬい方向を変えます。
押さえ上げをさげて、ふたたびぬい始めます。

★ぬい終わりの返しぬい

①返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

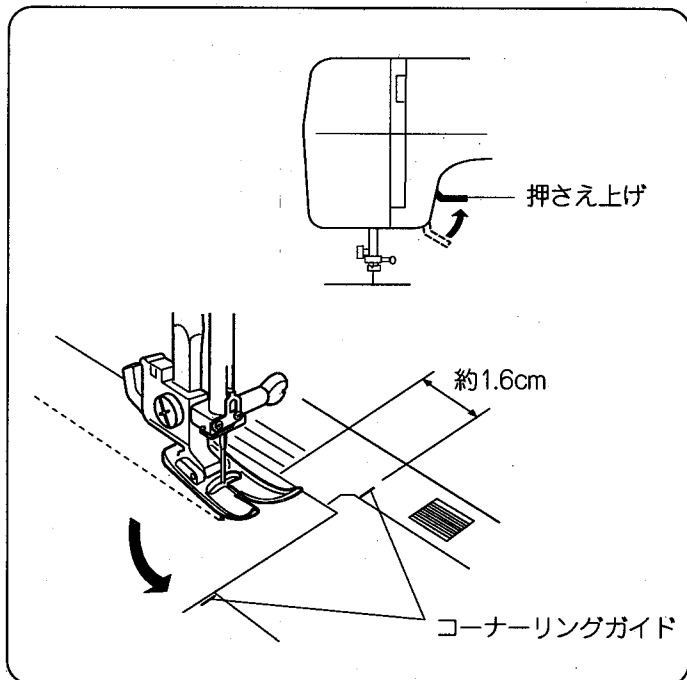
②押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

③布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

◎針板ガイドラインの利用

布端を針板ガイドラインにあわせてぬいます。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく(cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

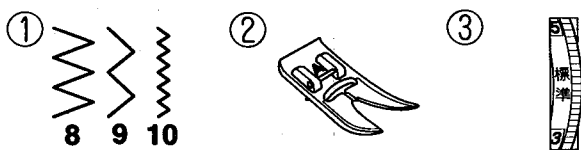
※数字は針穴中央から布端までの距離です。

◎コーナーリングガイドの利用

布端から1.6cmのところで直角にぬい方向を変えるとき…

①布端が コーナーリングガイドのところにきたらミシンを止め、はずみ車を手前にまわして針を布にさします。

②押さえ上げをあげ、布を回転させてガイドラインの5/8(1.6cm)にあわせます。

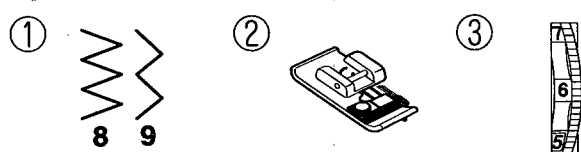
③押さえ上げをさげ、ミシンをスタートします。

◎ジグザグぬい

①模様　　8, 9, 10

②押さえ　　A 基本押さえ

③糸調子ダイヤル　　2～5

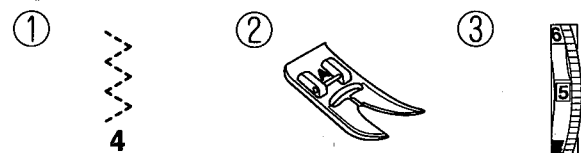
伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

◎ジグザグぬいたち目かがり

①模様　　8, 9

②押さえ　　C たち目かがり押さえ

③糸調子ダイヤル　　標準 ～ 7

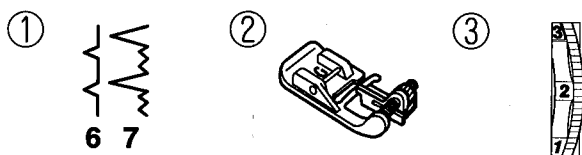
布端のほつれ止めとして広く利用します。
布端をたち目かがり押さえのガイドにあててぬいます。

◎トリコットぬいたち目かがり

①模様　　4

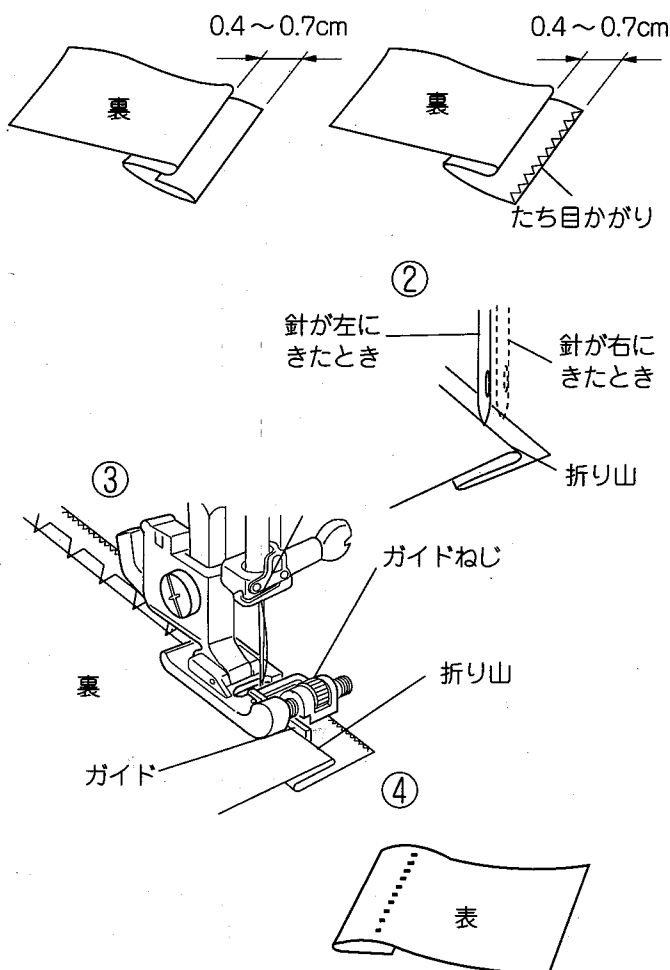
②押さえ　　A 基本押さえ

③糸調子ダイヤル　　標準 ～ 6

ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の返り防止などに利用します。
ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

◎くけぬい（まつりぬい）

①模様　6, 7

②押さえ　G くけぬい押さえ

③糸調子ダイヤル　1 ～ 標準

①布は折るときに裏を表にして下に折り込み、布端を0.4～0.7cmほどはみ出させます。

②針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押さえ上げをさげます。

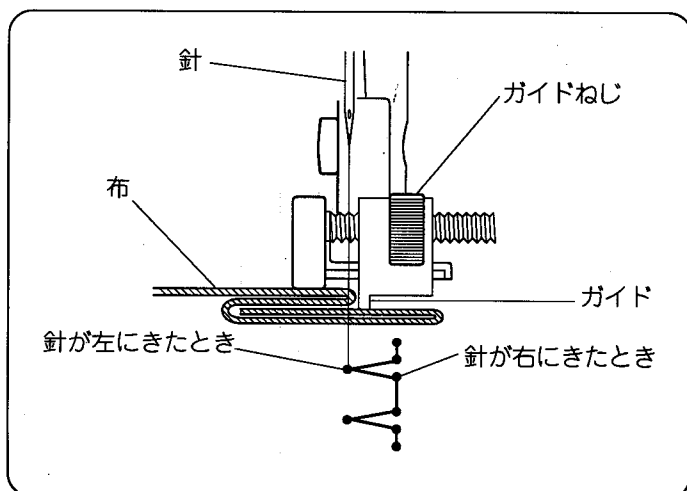
③ガイドねじをまわして、ガイドを折り山にあわせ、針が折り山からはずれないようにぬいます。

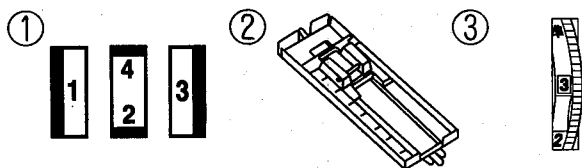
※下記の「ガイドのあわせ方」を参照してください。

④ぬい終わったら布を表に返します。

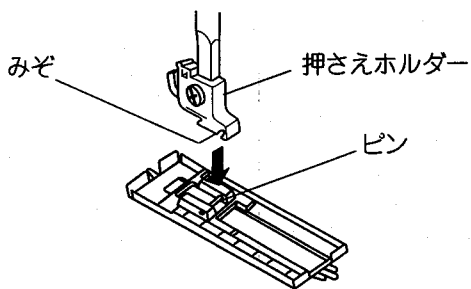
※左側におりる針が必要以上にかかりすぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりませんのでご注意ください。

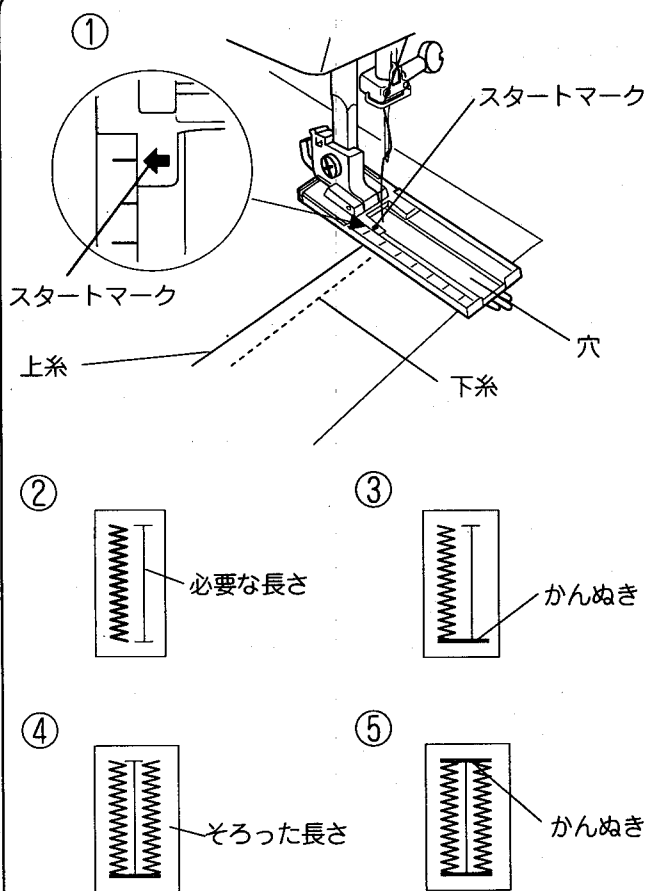
※伸縮性のある布をぬうときは、模様7を選びます。

★ガイドのあわせ方

◎ボタンホールぬい

《ミシンのセット》

①模様　　ボタンホール

②押さえ　　Ｊボタンホール押さえ

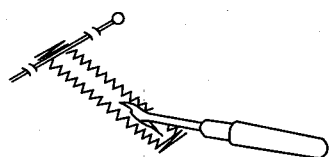
③糸調子ダイヤル　　1 ～ 5

針をあげて、押さえ上げをあげます。
押さえホルダーのみぞと押さえのピンをあわせ、押さえ上げをさげてセットします。

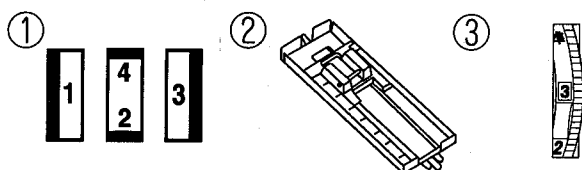
※ぬうものと同じ布で試しぬいをして、確かめてからぬい始めてください。
※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

①模様選択ダイヤルをまわして模様[1]を選びます。押さえをあげて、上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れて、押さえを手前いっぱいまで引き出し、スタートマークを合わせます。ぬい始めの位置に針をさして、押さえをおろします。

②ミシンをスタートさせます。必要な長さだけぬい、ミシンを止めます。

③模様[4/2]を選び、かんぬきを5針ほどぬい、ミシンを止めます。

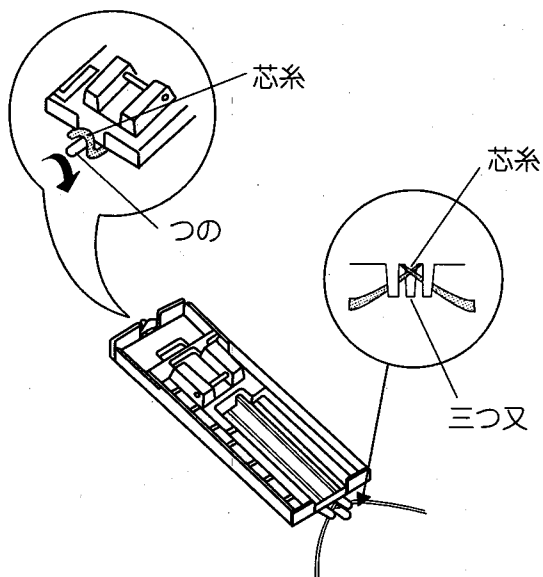
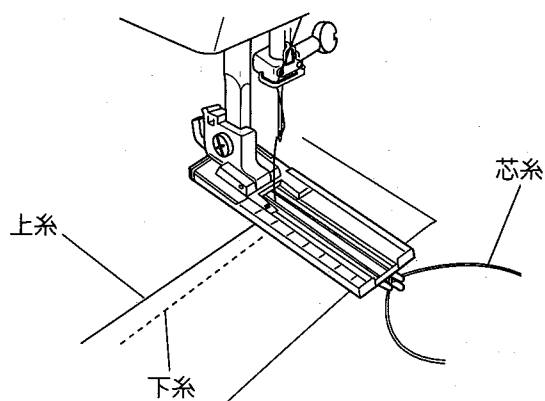
④模様[3]を選び、左側と同じ長さまでぬい、ミシンを止めます。

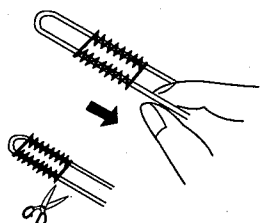
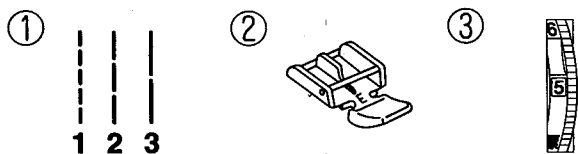
⑤模様[4/2]を選び、かんぬきを5針ほどぬいます。

押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引きだし、上糸と下糸を結びます。
かんぬきの内側にまち針をわたして、目ほどきでかがった糸を切らないように切り開きます。

◎芯入りボタンホールぬい

①模様　　　　　ボタンホール

②押さえ　　　　Jボタンホール押さえ

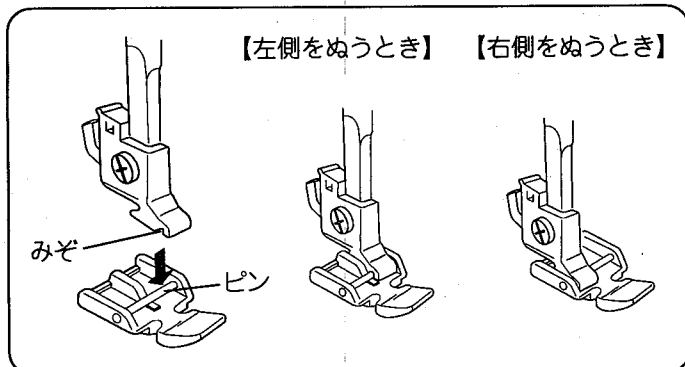
③糸調子ダイヤル　1～5

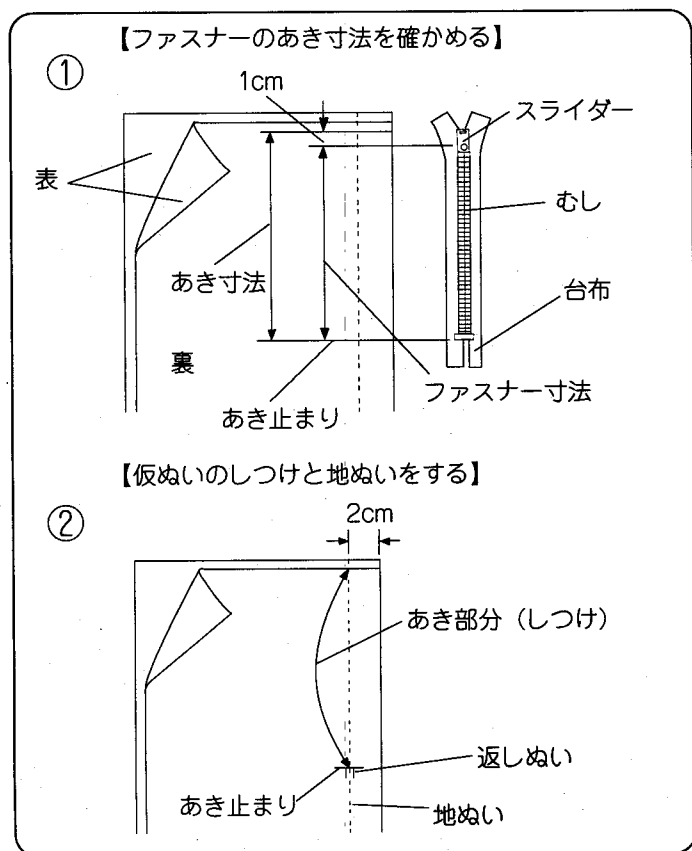
芯糸の輪を押さえの後ろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引きだし、前側の三つ又に交差してはさみます。

上糸と下糸を横に引き出してそろえます。
ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。
ミシンをスタートさせて、ボタンホールの手順と同じようにぬいます。

左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な芯糸を切ります。

※穴のあけ方は、18 ページをごらんください。

◎ファスナーつけ

①模様　1, 2, 3

②押さえ　E ファスナー押さえ

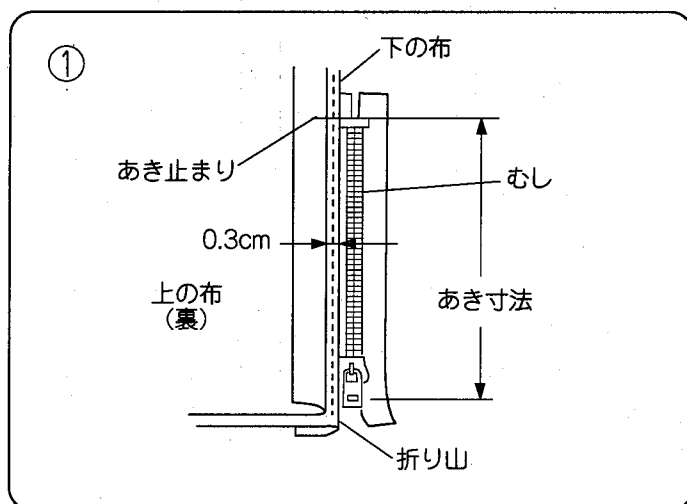
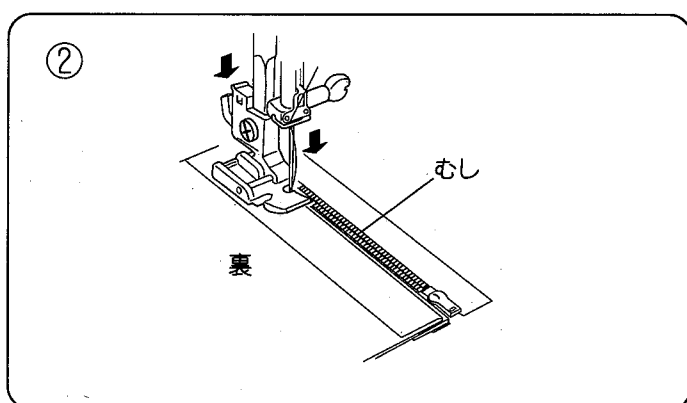
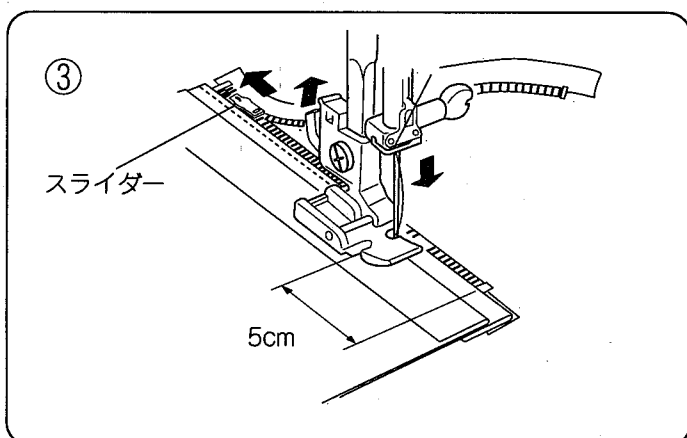
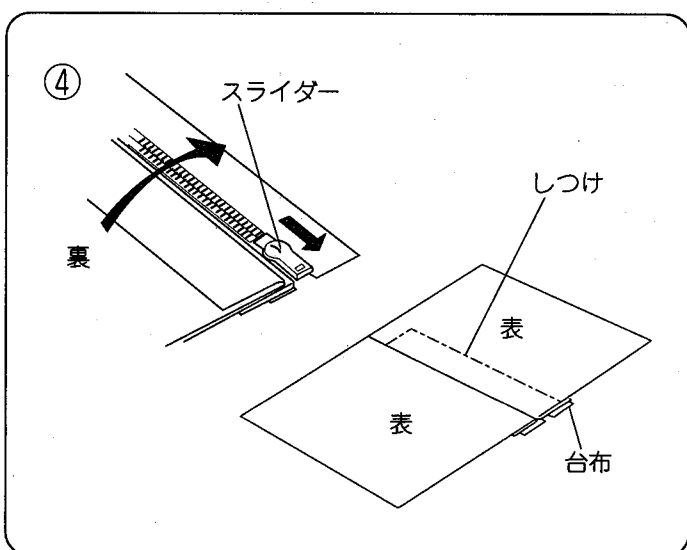
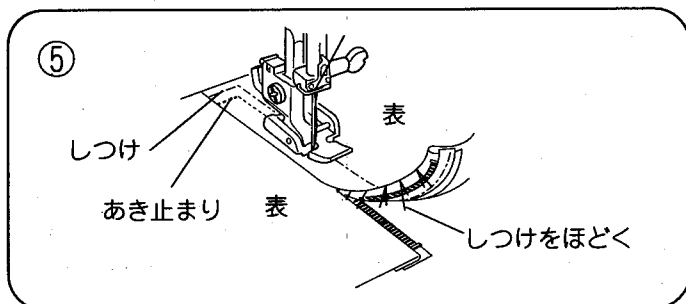
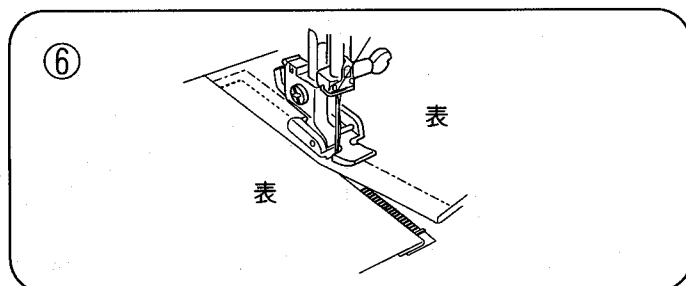
③糸調子ダイヤル　標準 ～ 6

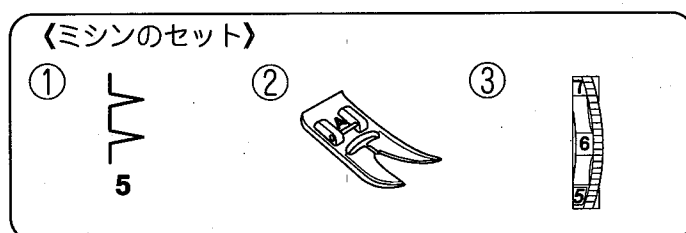
★ファスナー押さえのつけ方

左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンをあわせて右側にセットします。
右側をぬうときは、左側にセットします。

★準備　（例：左脇あきのぬい方）

①ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。

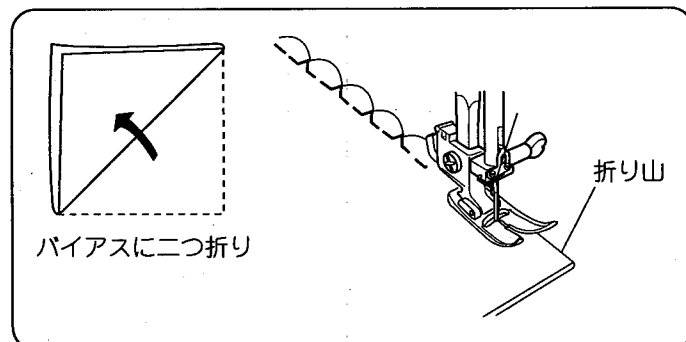
②仮ぬいのしつけと地ぬいをします。
布を中表にあわせて、あき止りまで地ぬいをします。
あき部分は、模様 3 でしつけをします。

※しつけは、ほどきやすいように糸調子を「1」くらいにしてぬいます。

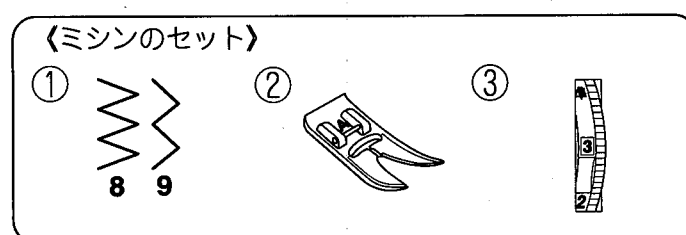
★ぬい方

①ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

②押さえホルダーをファスナー押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。

③ファスナーの端から5cmほど手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえをあげてスライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。

④ファスナーをとじ、スライダーを上にたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。

⑤押さえホルダーをファスナー押さえの左側につけかえ、上の布のあき止まりを返しぬいし、むしのきわに押さえの端をあててぬいます。
ファスナーの上側を5cmほど残したところで止め、はずみ車をまわして針をさげ、針を布にさしたままで押さえ上げをあげて、準備②でぬったしつけ糸をほどきます。

⑥スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。
ぬい終わったら、手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

◎シェルタック

①模様　5

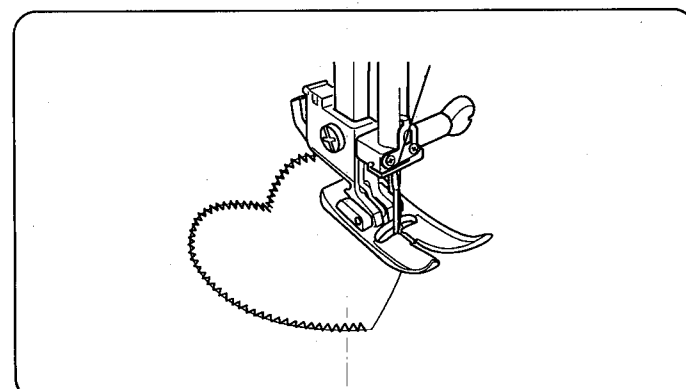
②押さえ　A 基本押さえ

③糸調子ダイヤル　3～8

布をバイアスに二つ折りにします。
針が右にきたとき布の折り山のきわにおりるようにしてぬいます。
布を開き、アイロンで山を片側にたおします。

※糸調子は試しぬいをして、シェルタックの山がきれいになるように調整します。

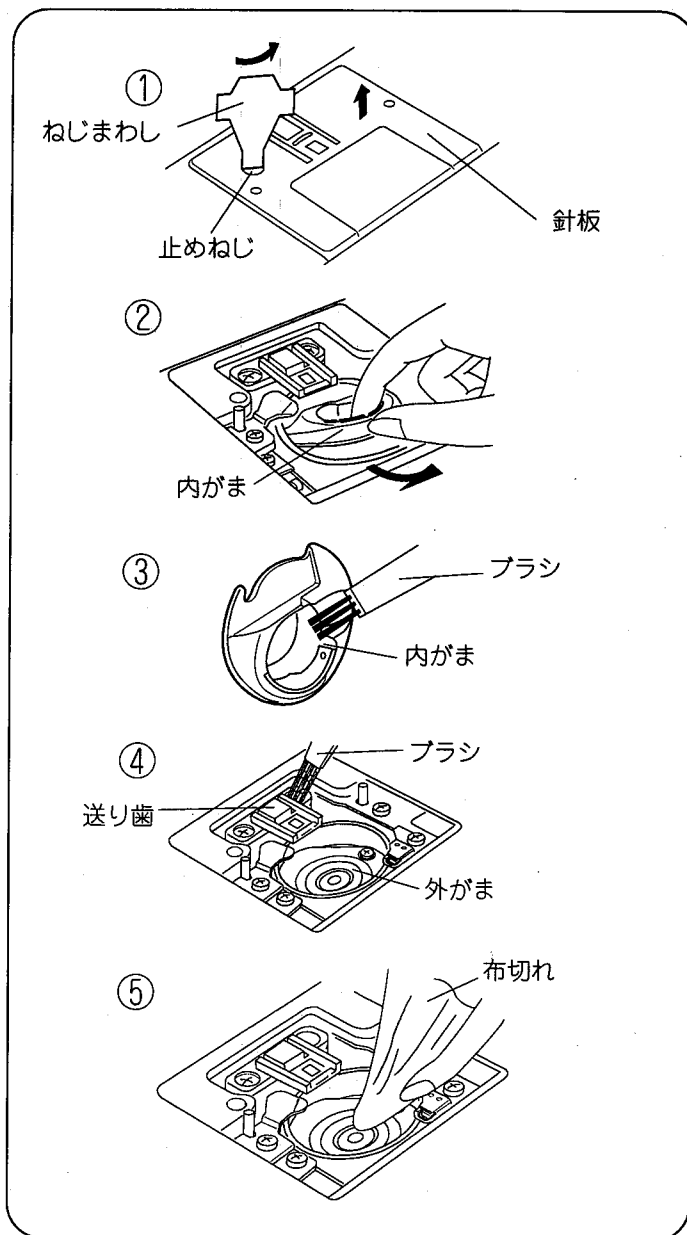
◎アップリケ

①模様　8, 9

②押さえ　A 基本押さえ

③糸調子ダイヤル　1 ～ 標準

アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。
アップリケ布が針の左にくるようにしてぬっていきます。

※カーブのところや方向転換をするときは、はずみ車を手前にまわし、針をアップリケ布の外側にさしたままでかえると、きれいに仕上がります。

●ミシンのお手入れ

◎かまと送り歯の掃除

※お手入れのときは…
・必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
・説明されている箇所以外は分解しないでください。

①針と押さえをはずします。
　針板止めねじをはずし、針板をはずします。

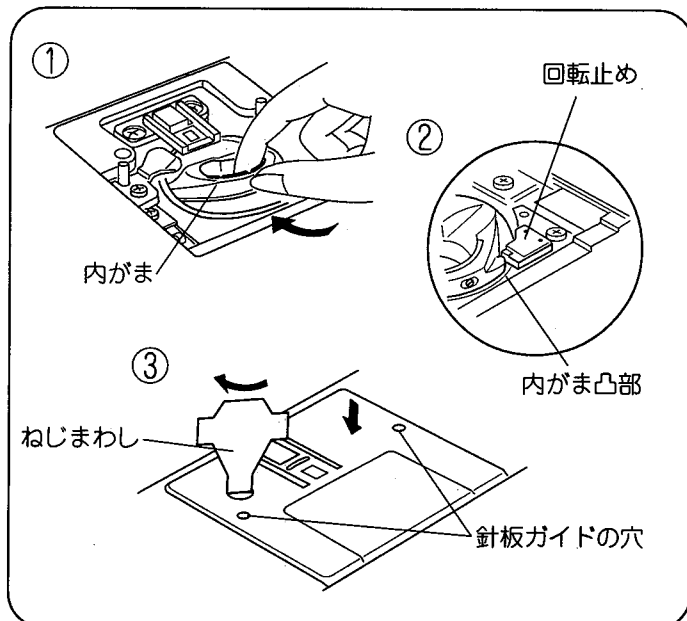
②ボビンをとり出し、内がまの手前を上に引きながらはずします。

③内がまをブラシで掃除し、布切れで軽くふきます。

④送り歯のごみをブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

⑤外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。

◎内がまと針板の組みつけ

①内がまを差し込みます。

②内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

③ボビンを入れ、2箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴をあわせ、止めねじをしめます。

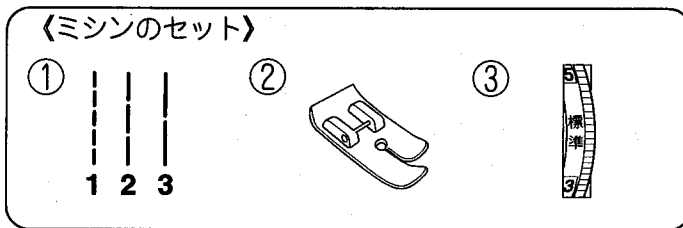
※お手入れが終わったら、忘れずに針と押さえをつけてください。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

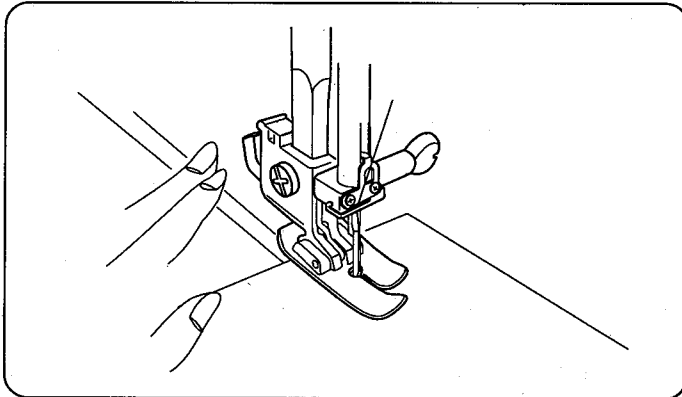
調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	1．上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 2．上糸調子が強すぎる。 3．針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4．針のつけ方がまちがっている。 5．ぬい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6．縫いおわったとき、布を手前に引いている。 7．針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	10ページ参照 13ページ参照 7ページ参照 7ページ参照 14ページ参照 14ページ参照 7ページ参照
下糸が切れる。	1．下糸の通し方が、まちがっている。 2．内がまの中に、ごみがたまっている。 3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	9ページ参照 23ページ参照 ボビンを交換する
針がおれる。	1．針のつけ方がまちがっているか、針が曲がっている。 2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3．ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 4．布に対して針が細すぎる。	7ページ参照 7ページ参照 14ページ参照 7ページ参照
ぬい目がとぶ。	1．針のつけ方がまちがっているか、針が曲がっている。 2．布に対して、針と糸が合っていない。 3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（市販SP針）を使っていない。 4．上糸のかけ方がまちがっている。 5．品質の悪い針を使用している。	7ページ参照 7ページ参照 7ページ参照 10ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる。	1．上糸調子が合っていない。 2．上糸下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3．布に対して針が太すぎる	13ページ参照 9、10ページ参照 7ページ参照
布送りがうまくいかない。	1．送り歯に糸くずがたまっている。 2．ぬい目が細かすぎる。	23ページ参照 ぬい目をあらくする
ぬい目に輪ができる。	1．上糸調子が弱すぎる。 2．糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	13ページ参照 7ページ参照
ミシンがまわらない。	1．コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2．かまに、糸やごみがたまっている。	5ページ参照 23ページ参照
音が高い。	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯に、ごみがたまっている。	23ページ参照 23ページ参照

●別売の紹介

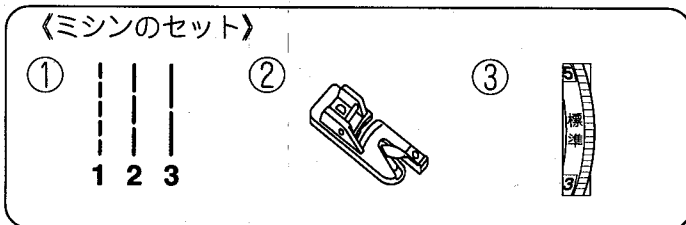
1. 直線押さえ ....(No. 823801004)

○直線ぬい

①模様　　1, 2, 3

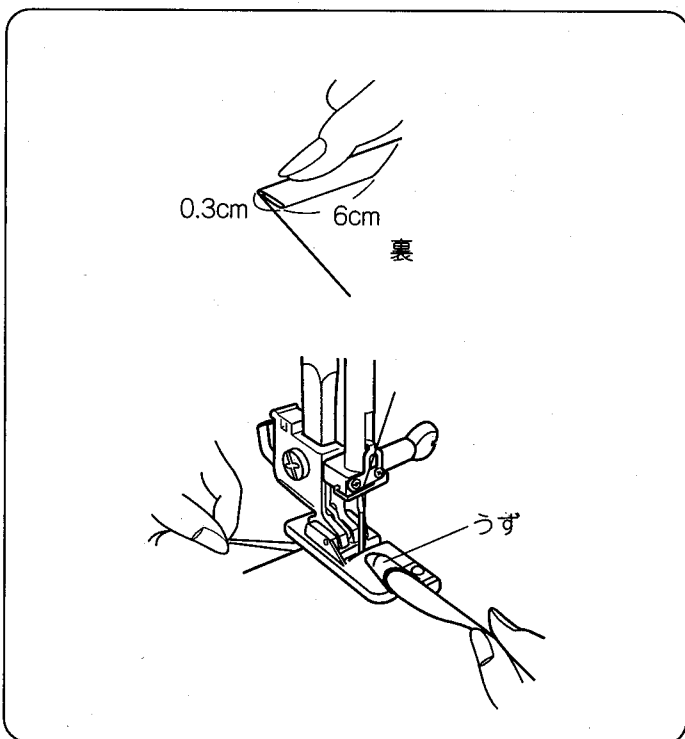
②押さえ　　H 直線押さえ

③糸調子ダイヤル　　2～6

糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。
押さえ上げをさげて、ゆっくりぬい始めます。

2. 三つ巻き押さえ ....(No. 820809014)

○三つ巻きぬい

①模様　　1, 2, 3

②押さえ　　D 三つ巻き押さえ

③糸調子ダイヤル　　3～6

①布端の長さ6cm を約0.3cm の巾で三つ折りにします。

②ぬい始めの部分に針をさし、押さえ上げをさげます。

③上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押さえのガイドをあわせて1～2cm ぬいます。

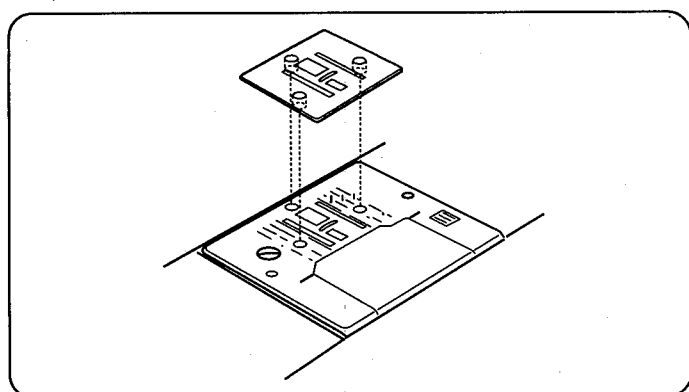
④はずみ車をまわして針をさし、押さえをあげて折曲げた布の部分を押さえのうずの中にまき込みます。

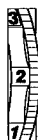
⑤押さえ上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながらぬいます。

3. イーブンフット ....(No. 214870008)

押さえの使用方法については、箱の中に説明書が同梱されています。

4. ダーニングプレート ....(No. 653801104)

○ダーニングプレートのつけ方

ダーニングプレートの裏についているピンを針板の穴におさめます。
ダーニングプレートは、ししゅうなどミシンが布をおくらないようにするときに使います。

○ししゅう

①模様　　1

②糸調子ダイヤル　　0 ～ 標準

※押さえと押さえホルダーははずします。
※ししゅう枠は、標準付属には含まれていません、

①布をししゅう枠にピンと張ります。

②上糸の端を左手でつまみ、針をぬい始めの位置にさし、押さえ上げをおろします。

③はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて、下糸を布の上に引き出します。

④左手の指先で上糸と下糸をおさえて止めぬいをし、余分な糸を切ります。

⑤ししゅう枠を手で下に押しつけるようにして、ゆっくりぬいながら、針が布から抜けている間にししゅう枠を動かして、もようをぬいます。

※動いている針に手を近づけすぎて、刺さないように気をつけましょう。

仕　　　　　様	
使　用　電　圧	100V　50/60Hz
消　費　電　力	50W／ランプ100V12W
外　形　寸　法	幅40.0 cm X 奥行17.0 cm X 高さ28.0 cm
重　　　　量	6.0 Kg（本体）
使　　用　　針	家庭用　HA×1
縫　　速　　度	毎分600針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

お　客　様　相　談　コ　ー　ナ　ー

★ジャノメミシンでは全国の直営支店で万全のアフターサービスをしております。この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。

★お問い合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると係員も故障の原因や箇所がわかって便利です。

★アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室　☎ 03（3277）2200
〒104-8311　東京都中央区京橋3-1-1

池袋支店　☎ 03（3987）5266
〒170-0013　東京都豊島区東池袋1-28-7

西東京支店　☎ 03（3337）0482
〒166-0001　東京都杉並区阿佐ヶ谷北2-36-1

八王子支店　☎ 0426（42）0777
〒192-0046　東京都八王子市明神町4-11-12

横浜支店　☎ 045（842）3816
〒233-0002　神奈川県横浜市港南区上大岡西1-13-18

千葉支店　☎ 043（222）5121
〒260-0012　千葉県千葉市中央区本町1-5-14

富山支店　☎ 076（431）8827
〒930-0029　富山県富山市本町3-25

新潟支店　☎ 025（287）7140
〒950-0925　新潟県新潟市弁天橋通1-4-33 湖南ビル1F

郡山支店　☎ 024（932）3362
〒963-8852　福島県郡山市台新1-4-15

盛岡支店　☎ 019（624）6741
〒020-0021　岩手県盛岡市中央通2-9-20

札幌支店　☎ 011（861）5634
〒003-0027　札幌市白石区本通3丁目北1-21

名古屋支店　☎ 052（733）5116
〒466-0027　愛知県名古屋市昭和区阿由知通1-12-3

浜松支店　☎ 053（476）5191
〒433-8122　静岡県浜松市上島5-5-30

大阪支店　☎ 06（6583）8031
〒552-0002　大阪府大阪市港区市岡元町3-1-4

和歌山支店　☎ 0734（31）6216
〒640-8033　和歌山県和歌山市本町2-12

西陣支店　☎ 075（461）7940
〒602-8276　京都府京都市上京区千本通上長者町上ル百万遍町89

岡山支店　☎ 086（222）8896
〒700-0814　岡山県岡山市天神町1-26

広島支店　☎ 082（228）5181
〒730-0016　広島県広島市中区幟町15-9

熊本支店　☎ 096（354）6523
〒860-0845　熊本県熊本市上通り町8-15

長崎支店　☎ 095（849）6025
〒852-8107　長崎県長崎市浜口町3-8

※上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。